



山口

サンライン
中野 郁夫 社長

つなぐ

広島

チュートリップ
原田 耕太郎 社長



人と人をつなぐ、

技術力で世界をつなぐ、

伝統を未来へとつなぐ―

地域や世界の

笑顔のために挑戦を続ける、

山口フィナンシャルグループの

お取引先を

ご紹介いたします。



北九州

小倉クリエイション
渡部 英子 社長

サンライン

山口（山口県岩国市玖珂町）

中野 郁夫 社長



1.2.3.ユーザーの用途に合わせて多様な商品を揃える。常に最新のニーズを捉えた商品開発が当社の強み。

水切れが良く、しなやか

細く強くが何よりも大切。

国内で約700万人とも言われる

釣りファンが「釣り糸」に求める条件はシンプルですが、

すべてを満たすのは、簡単ではありません。

この課題に挑み続けてきたのが、

国内のトップシェアを誇る

釣り糸メーカー、サンラインです。

納得のいく原糸を

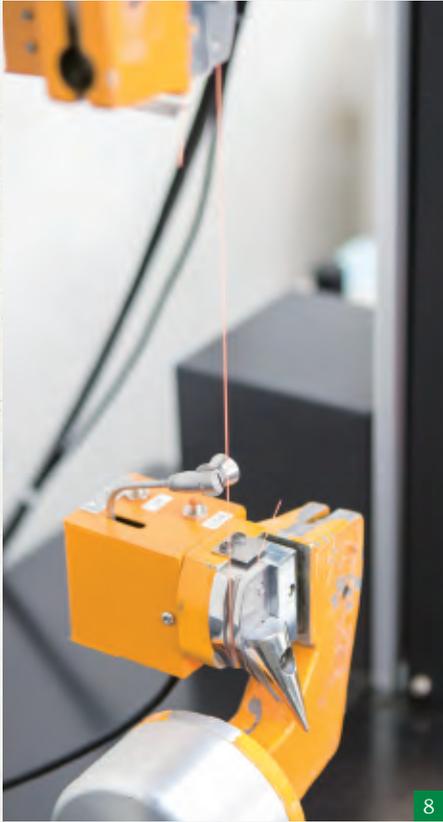
サンラインは1977年、釣り糸となる原糸を仕入れ、樹脂加工して販売する会社としてスタート。創業当時を知る3代目の社長の池田康彦会長は「初代の宮本健彦社長は全く妥協をしない方。当時、業界大手から糸を仕入れていましたが、大手に対し、何度も品質改善を要求していました。原糸の質を向上させることが、『強い糸作り』の基本と考えていたのでしょう」と振り返ります。

サンラインは結局、「納得のいく原糸を自分たちの手で作る」ことにしまし

た。1979年から、原糸加工技術の中でも難易度の高い耐水樹脂ハード加工の研究に着手。1981年に開発に成功しており、その技術を活かし、原糸の研究、製造を始め、およそ10年間の試行錯誤の末、ほぼ満足できる耐水性、耐久性を備えた強い糸を作ることに成功したのです。池田会長は「失敗は山ほど。すぐ切れてしまう釣り糸もたくさん作ってきましたよ」と話します。

販路の拡大に苦勞

強い糸を手に入りましたが、販路の拡大



4.釣糸を顕微鏡レベルで分析して、高い品質を維持している。5.社長の中野郁夫氏。「培った技術を活かして新しい製品開発をしていきたい」と意気込む。6.会長(前社長)の池田康彦氏。「数多くの失敗の経験こそが当社の財産」と語る。7.8.厳しい品質検査を経て製品化されている。

こうしてユーザーの声を聞いてきたことが、現在のフィールドテスター制度につながっています。実際に使用し、製品について、提言や情報発信をしてくれるフィールドテスターは400人を超えているそうです。釣り人や釣具店とのつながりを大切にする姿勢が、現在のトップシェアの礎を築いたのでしょう。

つながりを大切に

にも苦労しました。釣り道具は、竿、リール、釣針などを、大手の釣り具メーカーが、問屋から釣具店に卸すのが一般的で、釣り糸だけの会社の製品を扱うことに釣具店が慣れていなかったのです。知名度も低かったため、営業担当者が一軒ずつ釣具店を回ったといえます。

1985年に、大阪営業所を開設しました。さらに、仙台、東京、広島と増やしていきました。各営業所には4、5人の担当者を置きました。4代目の社長となる中野郁夫社長は「営業先の釣具店では、店のご主人だけでなく、実際に釣り糸を使う釣り人の意見に耳を傾けるため、営業担当者を増やしたのです。集まったたくさんの方が、より強くて丈夫な糸作りに役立ちました」と説明してくれました。



Company profile

株式会社サンライン

【創業】昭和52年

【住所】山口県岩国市玖珂町1600-21

【ホームページ】

www.sunline.co.jp



「やまざんさんとは創業当初からの付き合い。これからも協力あって地域を盛り上げていきましょう」(左から池田康彦会長、柳井支店 禪院康広次長、中野郁夫社長)

社名には「太陽が昇るような会社」という願いが込められているそうです。スローガンは「小さくとも世界一になろう」。中野社長は「これまでに培ってきた技術は、人工毛髪やテニスラケットなどにも活用できます。釣り糸だけでなく、新しい製品の開発に、社員全員が一体となって取り組んでいきます」と強調しています。

チューリップ

広島
(広島市西区楠木町)

原田 耕太郎 社長



1.「大きめの針穴、曲がりにくくよくなる、最高の布通り。」を実現した手縫針シリーズ「針ものがたり」2.3.4.かぎ針、レース針は徹底したかぎ先研磨で、編み目が揃うなだらかなかぎ先が特徴。

もめん針、刺繍針、まち針など

「針ものがたり」と名付けた手縫用の針は86種。

レース針、かぎ針やはさみなど

手芸用品を含めると、

扱うアイテム数は1000を超え、

針メーカーとしては国内トップシェアを誇っています。

社名にもこだわり

広島針の歴史は、江戸時代に始まりました。約300年前、広島藩の浅野家が連れてきた針職人が下級武士に、内職として針の製法を教えたことがきっかけです。明治期に入ると、機械化が進み、高品質の針を大量に生産できる広島針の高い技術は全国的にも有名でした。

チューリップ社の前身、原田製針所が設立されたのは1948年。原田耕太郎社長の父で、先代社長の原田穆氏^{あつし}が、釣り針の製造、線材加工業として創業しました。針機械製造からの転身で、2年後には家庭用手縫針の生産を始めました。

海外で需要の高かったレース針にもいち早く着手しました。

「先代は金型から機械まで製作することができた。一貫してできることが強みでしたね」と耕太郎社長は振り返ります。

社名を「チューリップ株式会社」に変更したのは1970年。針を扱うのは、女性が大半の時代だけに、女性が愛情を持って覚えてもらいやすい名前にしたといいます。

品質に自信

針の製造工程は、針のつながった部分をつくる尖頭研磨や針穴の形成など30



5.「品質が何より第一です」と力強く語る原田社長。6.海外への輸出用にパッケージされたレース針。高品質のレース針は海外でも大人気。7.本社工場の1階でかぎ針、レース針のめっき作業を行う。8.幅広い商品ラインナップを取り揃える。9.カーブとのコラボグッズで、ソーイングセットなど。平和記念公園の近隣に昨年オープンした「おりづるタワー」をはじめ、広島市内手芸店などでお取り扱いをしています(品切れの場合がございます)。10.スマホなどの電子基板用検査針は、長年高品質を誇る当社の針だからこそ信頼性を確立している。

東京の会社社長が来社したのは1979年。「家電製品のプリント基板を品質検査する針の先がほしい」という依頼です。電子基板検査用で条件は、めん針の太さで長さ5mm、6mm以下。他社が次々と断るなか、耕太郎社長は「できます」と即答しました。当初、サンプルを1万本お渡ししましたが、1か月もしないうちに注文数は10万本に。その後、20万本、50万本と増え、チューリップの大きな柱へと成長しており、現在では、髪の毛より細い直径0.1mm以下

電子針にも対応

のぼりです。なかでも、高温の炉で熱した針を低温の油の中に焼き入れ、その針を低い温度で加熱する焼き戻しの作業では、品質管理を徹底しています。データに基づく温度調整をすることで、思い通りの硬さ、しなりを持つ針を作ることができます。

耕太郎社長は「品質が悪いものはすぐに曲がってしまいますが、当社の針は、ねのように弾力があるため曲がりません。しかも、めん針、キルト針、刺繍針など用途によって、縫いややすい硬さやしなり具合が違うので、焼き入れ、焼き戻しの温度もそれぞれ違ってきます。品質を左右する焼き入れ、焼き戻しなど技術の確かさが当社の自慢です」と話します。



Company profile

チューリップ株式会社

【創業】昭和23年

【住所】広島県広島市西区楠木町4-19-8

【ホームページ】

www.tulip-japan.co.jp



「利重さんは瞬発力が高くすぐ対応して下さるので、困ったときには利重さんの顔が浮かんですぐ電話しています」と中野さん。(左から原田耕太郎社長、経理担当の中野佳生理さん、もみじ銀行三篠支店利重宏明支店長代理)

の針も製造しています。来年度には専門工場の新設も計画されています。

手縫針、まち針は国内の9割以上が広島県で生産されており、広島針は地域団体商標に登録されています。耕太郎社長は「これからも当社しかできない高品質の針を、世界のお客様に提供していきます」と強調しています。

※商標登録第5124410号「広島針」®は地域団体商標です。

小倉クリエーション

北九州

(北九州市小倉北区大手町)

渡部 英子 社長



1.まるでプリント生地と見まごうような、はっきりとした経糸の色が鮮やか。2.扇子、財布、名刺入れなど生活に溶け込む商品ラインナップ。3.テーブルクロスなどインテリアにも取り入れられる。

江戸時代初期から豊前・小倉藩(北九州市)で織られ、袴や帯に使われていた小倉織は、

丈夫で良質な美しいたて縞の木綿布で知られています。

明治時代には男子学生の制服として全国に広がりましたが、1901年に起きた金融恐慌の余波もあり、織物会社が解散。生産者も減り続け、昭和初期には途絶えてしまった小倉織を染織家の築城則子氏が復元したのは1984年でした。

そして、その小倉織の特徴を継承した

機械織の「小倉縞縞」を展開する会社として、

1996年に設立されたのが「小倉クリエーション」です。

丈夫でなめらか

小倉織は緯糸よこいとに対し、通常の織物の3倍の経糸たていとを織り込むことから、たて縞が目立つ丈夫な織物になります。使い込むほど、織り糸の隙間が詰まり、なめらかになるため、刺客が小倉藩の中老を槍で刺そうとしたものの、穂先が小倉織の袴の裾をすべり、かすり傷を負わせることのできなかつたといわれています。

手軽に愛用して

築城氏の妹でもある渡部英子社長は「姉が江戸時代の小倉織の端切れを手にしたのが始まりです。当初は、糸を手染めし、手織りで制作していたので、どうしても高価な織物になってしまいました。以前のように、『だれもが手軽に愛用できる小倉織に』という思いから、機械を使って、量産化を図るこ



4.小倉織のバッグは色鮮やかで、コーディネートアクセントにも。5.小倉織を持って気軽にお出かけできるシンプルBAG(税込4,320円)。6.「『北九州と言えば小倉織』と言われるよう広げていきたい」と渡部社長。7.小倉織の撥水性を活かして、傘も取り扱ふ。

当初は、ギフトやお土産が中心でしたが、地元の人たちに普段の生活で使ってもらうため、デザインも現代風に工夫しています。製品も帯、風呂敷のほか、バッグ、名刺入れ、ネクタイ、カーテン、クッションなど、ラインナップも年々広がっています。密度が高い、という特長を活かし、撥水機能を持つ傘も販売しています。

渡部社長は「繊細さ、緻密さ、細やかなグラデーションを兼ね備えた小倉織は、繊維産業の歴史の深いヨーロッパでも高い評価をいただきました。重工業が中心だった北九州では、小倉織をはじめとする伝統産業を守ろうとする意識がこれまで少なかつたのかもしれない。復元した小倉織を二度と衰退させることはできません。地域や行政と連携し、伝統産業が少ないと言われる北九州の『街

北九州の街の顔に

とにしたのです」と振り返ります。

機械織りにも課題がありました。経糸が通常の3倍の小倉織は、高速で機械織りすると、傷がつきやすくなるのです。このため、熟練した職人が確認しながら、織っていかなくてはなりません。渡部社長は「小倉織の特徴を理解したうえで、注文通りに織ってくれる機械物屋さんを探すのが大変でした」と言います。



Company profile

有限会社小倉クリエーション

【設立】平成8年

【住所】福岡県北九州市

小倉北区大手町3-1-107

【ホームページ】www.shima-shima.jp



「北九州に根付いた銀行として設立されたことが嬉しかったです。今後も様々な情報の提供を期待していますね」(左から渡部英子社長・北九州銀行本店営業部の藤本明宏担当)

北九州銀行は
通帳の
デザインに
小倉織を
採用。



の顔」になり、北九州と言えば、全国のみなさんに小倉織のデザインを頭に浮かべて頂けるようになるのが夢です」と意欲を示しています。